

災害時等のEV活用について

1 災害時にEV等を電源として活用する仕組みづくり

災害時等の停電発生時に、民間事業者等が保有する電気自動車等を電源として提供を受けるための仕組みを検討する。

(1) 車両提供の仕組みづくり

EV等普及策検討会において、民間事業者等が保有する電気自動車等をあらかじめ登録し、災害時に、市の要請により自ら進んで避難施設に出動していただく仕組みづくりについて検討した。

災害時に出動する緊急車両として位置づけるのは難しく、対応可能な場合にボランティアで電源供給する、また、電源供給が可能なEV・PHVの普及をもう少し待つ必要があるため、引き継ぎ、検討を進めることとした。

(2) 防災訓練・イベントでの活用

避難施設周辺の住民による電気自動車等を避難施設の非常用電源として活用する仕組みづくりを構築するため、各地区の防災訓練（まちづくり協議会主催）に赴き、電力供給デモンストレーションを実施している。

また、市内で実施されるイベントにおいて、展示中の電気自動車から電力を供給するなど、「移動する蓄電池」として活用ができることのPRを行っている。

防災訓練における電源活用の実施

（平成 26 年度 4 回実施）

- ・平成 26 年 7 月 13 日 進修地区防災訓練
- ・平成 26 年 11 月 2 日 東大淀地区防災訓練
- ・平成 26 年 11 月 29 日 大湊・神社・御菌地区津波避難訓練
- ・平成 27 年 2 月 7 日 佐八地区防災訓練



2 電気バスの電源活用検討

伊勢市役所の急速充電器は、非常用発電を稼働させ使用可能であるため、大容量のバッテリー（66kwh：小型自家用EVの2.75台分）を搭載したピカチュウ電気バス（給電能力1500Wコンセント装備）への充電の可能性について、引き継ぎ検討を進める。